

# 林業ミニ情報 No.157



令和2年1月

- 1 多賀林業振興会がチェーンソー特別教育に係る補講講習を開催……………1  
(常陸太田林業指導所 井上)
- 2 多賀林業振興会が林業先進地視察研修を実施……………2  
(常陸太田林業指導所 綿引)
- 3 城里町地内の民有林におけるヒノキコンテナ苗の植栽について……………4  
(笠間林業指導所 宇都木)
- 4 筑西市内の小学生が里山探検を体験！……………5  
(筑西林業指導所 富田)

## R 元.林業ミニ情報(令和2年1月)

(常陸太田林業指導所 井上 勝幸)

タイトル	多賀林業振興会がチェーンソー特別教育に係る補講講習を開催
年月日	令和元年9月18日(水)
場所	高萩市中央公民館
内容	<p>平成31年2月12日に労働安全衛生規則及び労働安全衛生特別教育規程の一部が改正されました。この改正に伴い、チェーンソーを用いて行う立木の伐採、かかり木の処理または造材の業務に関する特別教育講習に、「造材の方法」「下肢の切創防止用保護衣等の着用」が新たに追加されました。これにより、これまでに特別教育を修了して伐木の作業等に従事していた方は、令和2年7月31日までに、追加された項目の補講を受講することになりました。</p> <p>このため、多賀林業振興会が、林業・木材製造業労働災害防止協会茨城県支部から講師を招いて講習会を開催したところ、林業従事者を始め、日頃からチェーンソーを使用している会員64名の方が受講しました。</p> <p>午前の部と午後の部の2回に分かれて、チェーンソー使用時の心構えや追加された内容について講義が行われ、受講者は熱心に耳を傾けていました。</p> <p>補講後、改正により着用が義務化されたチェーンソー保護衣のサンプルを実際に着用した受講者からは、「メーカーによって違うが、思っていたよりも動きやすい。」等の感想のほか、「夏期の作業時には暑さ対策が必要。」等の声もありました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="403 1361 912 1740">  <p style="text-align: center;">講習状況</p> </div> <div data-bbox="927 1361 1436 1740">  <p style="text-align: center;">チェーンソー保護衣： 左2つチャップス型、右2つズボン型</p> </div> </div>
普及成果	<p>チェーンソー特別教育に係る補講講習会により、伐木等作業時の安全管理等についての認識を深めることができました。</p> <p>林業の労働災害原因要素の分析から、休業4日以上 of 創傷箇所の6割が下肢で、防護ズボン(チェーンソー保護衣)や、チェーンソー防護ブーツの着用により、その被害を軽減できるとされています。</p> <p>当指導所では、労働災害の撲滅のため、引き続き安全管理の徹底について普及に努めてまいります。</p>

タイトル	多賀林業振興会が林業先進地視察研修を実施
年月日	令和元年 11 月 18 日 (月) ~19 日 (火)
場所	山形県山形市「山形県庁」、金山町「大美輪の大杉」、 新庄市「協和木材(株)新庄工場」
内容	<p>多賀林業振興会が、県林業研究グループ連絡協議会と合同で林業先進地視察研修を実施しましたので、視察内容と結果について紹介します。</p> <p>山形県庁は、1 階ロビーの壁や階段の手摺り、情報掲示板などに県の地域材である金山スギを使用しています。木質化に当たり耐火基準を満たす必要がありますが、県内に防火処理できる工場が無く、材料を静岡県に運び処理をしたとのことでした。</p> <p>大美輪の大杉は、山形県金山町有屋地内にあるスギ巨木群で、享保年間に植林されたと言われており、樹齢は約 300 年、最大のものは胸高直径約 150cm、樹高は約 59m に達しています。金山町はスギの生育に適した気候で、かつては「一町歩一万石」と称された、人工林として最大級の蓄積と考えられるスギ林が存在していたとのこと。大径材が減少している中で、神社仏閣の木造での建て替えの際には、貴重な資源となります。</p> <p>協和木材(株)新庄工場は、平成 29 年にスギの集成材管柱の製造に特化した工場として稼働し、末口径 16~40cm までの原木を受け入れており、そのうちの約 5 割が山形県産材とのこと。令和元年 5 月から 10 月までの入荷量は 12,000~18,000m<sup>3</sup>/月で、冬期は積雪の影響で入荷量が 10,000m<sup>3</sup>/月を下回ることもあるとのこと。原木消費量の当初目標は 10,000m<sup>3</sup>/月としていましたが、現在では 11,000~13,000m<sup>3</sup>/月で推移しているとのこと。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>山形県庁 1 階ロビー</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大美輪の大杉視察の様子</p> </div> </div>





協和木材(株)新庄工場

普及成果

大美輪の大杉，協和木材(株)，山形県庁を視察して，素材から加工・製材，製品と川上から川下までの一貫した地域材の流れを学ぶことができました。

当指導所では，大型製材工場が求める原木の需給状況や木材市況，所有山林の状況を考慮して，短伐期施業と長伐期施業の選択など，山林所有者にあった施業方法を考慮し，今後の普及指導に努めてまいります。

タイトル	城里町地内の民有林におけるヒノキコンテナ苗植栽について
年月日	令和元年11月28日(木)
場所	城里町真端地内
内容	<p>城里町真端地区でいばらきの森再生事業を活用し、茨城県の民有林内では初めて、ヒノキコンテナ苗の秋植えが行われましたので紹介します。</p> <p>真端地区では、笠間広域森林組合が当指導所と連携して施業の集約化に取り組み、皆伐に合わせて、作業道の整備や間伐などを一体的に実施しています。今回の植栽地は平成31年春までにスギ・ヒノキの皆伐が実施された箇所です。ヒノキコンテナ苗4,050本、スギコンテナ苗3,900本、コナラ裸苗1,250本が植栽されました。</p> <p>植栽されたヒノキコンテナ苗のサイズは、苗高が35cm以上、根元径が6mm以上です。</p> <p>これまで、県内の民有林に植栽されたコンテナ苗は、スギのみでしたが(県有林を除く)、ヒノキコンテナ苗の出荷が本格的に始まったことで、より森林所有者のニーズに合わせた植栽を行うことができます。また、コンテナ苗は、一貫作業による低コスト化、厳寒期や真夏を除いたより幅広い時期における植栽が可能なることから、ヒノキについても作業の平準化が期待できます。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>植えつけ作業の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>植え付けされたヒノキコンテナ苗</p> </div> </div>
普及成果	<p>人工林の多くが利用期を迎える中、間伐や主伐を推進するとともに、森林資源の循環利用を図るには、効率的な再造林を進めていくことが不可欠です。当指導所では、今後も森林所有者等に情報提供するなどし、スギコンテナ苗とともにヒノキコンテナ苗の普及に努めていきます。</p>

タイトル	筑西市内の小学生が里山探検を体験！
年月日	令和元年11月30日(土)
場所	筑西市上野「五郎助山」地内
内容	<p>筑西市では、市内の小学校に通う5,6年生を対象に、学校の垣根を越え、市内の自然や歴史を学び、筑西市の良いところを知ってもらうことを目的としたイベントを行っています。</p> <p>年6回の計画のうち、今回は「自然の宝庫！里山を冒険しよう」と題して、筑西市内の平地林を会場に、市生涯学習課とNPO法人里山を守る会、当指導所の3者が協力して体験学習を行いました。</p> <p>場所は、里山を守る会が整備している、筑西市内にある里山林で、「五郎助山」とよばれているエリアです。</p> <p>なお、子どもたちは、市が作成した森林・林業に関する学習資料で、ある程度の知識を学んでから参加しました。</p> <p>はじめに、里山を守る会の会長が、身近な森林である里山について説明し、続いて当指導所職員が、里山を守るための取り組みや、林業の内容について説明した後、里山の整備作業と、ヒノキ材を使用したお箸作りを指導しました。また、集めた落ち葉や枝でたき火をし、里山を守る会が作製した炭で焼き芋づくりも行いました。</p> <p>子どもたちは、寒い中にもかかわらず、汗を流しながら熱心に作業に取り組みました。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>里山整備の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ヒノキ材を使用したお箸づくりの様子</p> </div> </div>

**普及成果**

県西地域の貴重な平地林を後世に残すために、市、ボランティア団体及び当指導所が連携して現地での体験学習を行いました。

参加した子どもたちには、実際に森林整備を体験してもらうことで、その大変さや大切さを実感してもらうことができました。

また、今回の体験では、かつて参加者だった高校生が、ボランティアで手伝ってくれました。このように、里山整備体験に「参加する側」から「手伝う側」になった子もいて、子どもたちに森林の大切さが確実に伝わっているということを実感しました。

次代を担う子どもたちに、森林・林業に興味をもってもらえよう、今後もこのような活動の支援を継続してまいります。